ミクロネシア諸島自然体験交流

報告書

No.

ガールスカウト 東京都 [redacted] ミニア [redacted]

私はミクロネシア自然体験交流でパラオ共和国に行きました。初めは仲良くなれるか
とても不安で緊張していました。しかし1日目にほとんどの友達と仲良くなることができました。
私がパラオに行って1番印象深かったのはホームステイです。私は英語が苦手だったので
言葉のかべを1番強く感じた場所でした。ホストファミリーの13歳の男の子が食事中に
「おいしい？」と聞いてくれたり、「いただきます」と食前に私たちの前で言ってくれたりと、
とても気にかけてくれました。また、私がホームステイで楽しかった時間はヤシの葉を編んで
いた時です。真ん中の茎の部分を取り除いて細い葉を4枚用意して立方体になるように
編んだり、茎の周りにジグザグと編んで遊んだ時は夢中になれました。
その他にも、ドライブに連れていってもらったり、ホタルを拾ってお父さんにくだいたのを食べたり
させてもらい、パラオ人の温かさに感激しました。
しかしせっかく話しかけてくれた言葉を理解できずに答えられないことや、聞きたいことを
何と表現すれば伝わるのかが分からないことがあり、とても悔しい思いをしました。
心は通じても言葉が通じないもどかしさを忘れずに、海外でも通用するような英語力を
身につけていきたいと思います。
私はパラオに行って驚いたことがあります。それは日本語とパラオ語が似ていることです。
「混乱している」をパラオ語では「ウタユグルグル」と言ったり、日本語で「大丈夫」はパラオ語
で「ダイジョーブ」と言うことや、日本語で「おいしい」はパラオ語で「オイシイ」や「アジダイジョーブ」
と言うことです。これは日本がパラオを統治していた時代があったためだということを
日本大使館で聞きました。そのためお土産を買いにいった時も日本のお菓子を見かけました。
また無人島ではパラオの大自然を思いっきり感じることができました。空いている時間は海が引いて
いたらビーチバレー、満ちていたら海に入り泳いで遊びました。海でお皿を洗うこともありました。
ココナッツジュースも飲みました。とても甘く自然の甘さとは思えないほどでした。おいしかったです。また、
ココナッツにしょうゆをかけるとマグロの刺身のような味がしました。現地の子から教えてもらい同じココナッツでも
ジュースとして飲んだりしょうゆをかけて食べたり、ココナッツオイルとして使ったり色々な楽しみ方があると思い
感心しました。無人島の朝は展望台にのぼりました。だいぶ急な階段を上っていきました。手を取り合ってみんな
で上まで上ることができました。展望台の景色はとても美しかったです。海と島が360°広がって見えて頑
張って上って良かった」と思いました。展望台から下りるとパラオと日本の子供たちで「JOP」という人文字
を作りました。JはJapan、PはPalauでその2つが仲良くするという♡の意味です。
その人文字を展望台に残っていたスタッフが上から写真をとってくれました。私たちはジャンプ
をしたり、親睦を深めることができたと思います。
パラオでのテーマは「みんなで架けよう～友好の架け橋～」でした。言葉はあまり通じなかったの
ですが笑顔でいることや、一緒にスポーツをすることで友好の架け橋を架けることができたと
思います。楽しい10日間でしたが、時がたつのが早く5日間くらいに感じました。この事業
がずーっとずっと続いていって欲しいです。そして、私が体験したことを色々な人に広げていきたいと思います。